

概要版

鎌ヶ谷市総合基本計画

基本構想・前期基本計画

人と緑と産業が調和し
未来へひろがる 鎌ヶ谷



総合基本計画について

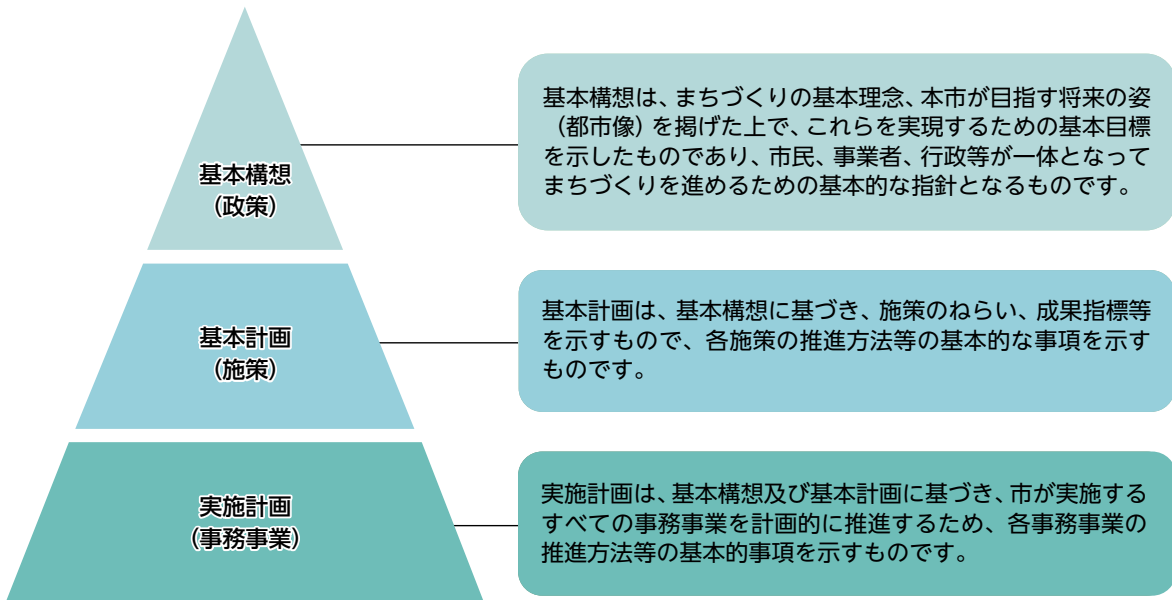
1 総合基本計画とは

鎌ケ谷市総合基本計画は、まちづくりの基本理念「みんなでつくるふるさと 鎌ケ谷」に基づき、市民、事業者、市が一体となって目指す将来の姿(都市像)「人と緑と産業が調和し 未来へひろがる 鎌ケ谷」を実現するための指針となる計画であり、本市の総合的かつ計画的な市政の運営を図るための計画です。

2 総合基本計画の構成

総合基本計画は、「基本構想」、「基本計画」、「実施計画」の3層構造で構成します。
「基本構想」、「基本計画」、「実施計画」のそれぞれの内容は次のとおりです。

図表 1 総合基本計画の構成



図表 2 総合基本計画の計画期間

年度	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	令和13年	令和14年
基本構想	基本構想 (12年間)											
基本計画	前期基本計画 (6年間)						後期基本計画 (6年間)					
実施計画	第1次実施計画 (6年間)						第2次実施計画 (6年間)					
				第1次実施計画《補正版》(3年間)						第2次実施計画《補正版》(3年間)		

※実施計画は、計画期間を6年間とし、3年ごとに補正版として見直しを行います。

基本構想

第1章 まちづくりの基本理念

みんなで作るふるさと 鎌ヶ谷

本市は、昭和52年に策定した基本構想において、「人間尊重・市民生活優先」をまちづくりの基本理念に設定し、これまで引き継いできました。

このまちづくりの基本理念には、急激な人口増加に伴って都市化が進んだ中においても、市民一人ひとりの持つ権利と役割を尊重しながら、すべての市民が、健康で生きがいを持ち、便利で快適に、安心して生涯を過ごすことができるといった市民生活を優先したまちづくりを実現していくという考えが込められています。

この人間尊重・市民生活優先の考え方は、行政運営にあたって変わることのない普遍的なものとなりますが、人口が急激に増加した当時のまちづくりの時代を反映した行政主導型の側面があります。

一方で、平成23年度にスタートした前総合基本計画の後期基本計画では、高齢化に伴う社会保障費の増加などを要因に、厳しい財政状況を迎える中、市民と行政がまちづくりの目標を共有し、市民との協働で達成する計画にしたところです。

今後のまちづくりにおいても、人口減少、少子高齢化は避けられない状況にあり、人材の確保、財政運営など課題が生じることが予想されます。

そのような中、まちづくりの主体となる市民、事業者、行政が、地域の中できちんと支え合いながら、「自分たちのまちは、自分たちでつくる!」という姿勢のもと、協働・連携を深めながら、地域の課題を解決していく必要があります。

そのため、鎌ヶ谷に生まれ育った人や移り住んだ人、またこれから住んでみたいと思う人の誰もが、地域にかかわりあい、鎌ヶ谷に誇りと愛着を持ち、心のよりどころとなる「ふるさと」を目指します。

その上で、私たちのふるさと鎌ヶ谷が誰もが幸せと希望を感じることであり続けることが、皆の願いであり、その想いをまちづくりの基本理念とします。

第2章 鎌ヶ谷市が目指す将来の姿(都市像)

人と緑と産業が調和し 未来へひろがる 鎌ヶ谷

本市は、昭和61年以来、めざすべき都市像を「緑とふれあいのあるふるさと 鎌ヶ谷」として、これまでまちづくりを進めてきました。

このおよそ30年の間に、都市基盤整備として、新鎌ヶ谷駅の開業、東武野田線及び新京成線の高架化、新鎌ヶ谷周辺地区の整備、成田スカイアクセスの開通、都市計画道路の整備などに取り組むことで、鎌ヶ谷市の街並みは大きく変化してきています。

こうした取組みにより、東京都心や周辺都市への交通の利便性は大きく向上し、さらに北千葉道路の事業化と相まって、広域交流拠点としてのさらなる発展が期待されています。

この機会を捉えて企業誘致を促進するなど、産業の活性化を図ることが重要な課題となっています。

また、社会経済情勢の変化に対応するため、待機児童対策及び子育て支援策の推進、教育環境の充実、市内公共施設の耐震化、学校給食センター及び市民会館の設置など、様々な事業に積極的に取り組んできました。

一方、市内には、自然環境や農地などの緑が大切に保全・育成され、特に果樹や野菜などを中心とした都市農業は鎌ヶ谷市の大きな魅力のひとつとなっています。

また、本市は、常に人と人との繋がりやまとまりを大切にすることで、次世代を担う子ども達や、地域における市民公益活動、スポーツ、文化活動、市民同士の交流等を通じて、多くの人や団体が育っています。

このような、全市一体となったまちづくりへの取組みを踏まえて、今後の目指す都市像は、「人と緑と産業が調和し 未来へひろがる 鎌ヶ谷」とします。

この都市像には、まちが一段とにぎわいを増していく中でも、子どもからお年寄りまで、あらゆる世代の人々が、住み慣れた地域の中で、安心して暮らし、学び、活躍するとともに、これまで受け継いできた緑を大切にしたいという想いを込めています。

この都市像を目指すまちづくりによって、市内外の人々にとって、住みたい、住み続けたい、訪れてみたいと思えるまちの実現を目指します。

第3章 基本目標

鎌ヶ谷市が目指す将来の姿を実現するため、次の5つの基本目標を定めます。

基本目標1 誰もが健康でいきいきと暮らせるまち(保健・福祉)

少子高齢化の進展、核家族化の進行などによる地域コミュニティの希薄化、地域における支え合いの基盤が低下するなど地域社会が変化中、住民相互の支え合い機能と公的支援の連携を強化することで、『誰もが健康でいきいきと暮らせるまち』を目指します。

そのため、生活に身近な地域において、市民同士が世代を超えてつながり、相互に役割を持ち、支え合う環境を構築することにより、安心してその人らしい生活を送ることができる地域共生社会の形成を推進します。

また、高齢者が住み慣れた地域の中で生きがいを持ち、元気でいきいきと暮らせる地域づくりを推進するとともに、障がいのある人もない人も、互いに認め合い、ともに暮らせる社会を実現することで、誰もが暮らしやすいまちづくりを推進します。

さらに、市民一人ひとりが健康意識の向上を図り、健康の維持増進に取り組むとともに、健康寿命の延伸を図り、生涯にわたり健康で幸せに暮らせるよう、それぞれの生活や年代に応じた健康づくりを推進します。



基本目標 2 子どもの生きる力をはぐくむまち(子育て・教育)

子どもやその家庭を取り巻く環境が変化する中、家庭、学校、地域、行政などが一体となって、子どもと子育て家庭に対する切れ目のない支援と学校教育の充実を図ることで、『子どもの生きる力をはぐくむまち』を目指します。

そのため、妊娠、出産、子育てまでの支援体制の充実や子どもが健やかに成長できる支援に取り組むなど、子どもを産み育てやすい環境づくりを推進します。

また、子ども一人ひとりの個性に応じたきめ細かな学習環境づくりに取り組むとともに、安全かつ快適な学習環境のもと、主体的に考え判断し行動できるよう生きる力(確かな学力、豊かな心、健やかな体)が育まれる学校教育の充実を推進します。

さらに、家庭、学校、地域、行政と連携を図りながら、青少年が地域社会との交流や様々な経験を通して、豊かな人間性と創造性を育み、地域で健やかに育つことができる環境づくりを推進します。



基本目標 3 自然と調和した 災害に強いまち(安全・環境)

地球温暖化による気候変動、地震などの自然災害の脅威が増す中、災害から市民の生命、身体、財産を守るとともに、自然にやさしい良好な環境を保全及び創造することで、『自然と調和した 災害に強いまち』を目指します。

そのため、自然災害の被害を最小限に抑えるよう、自助、共助、公助が一体となった取組みによる市内全域の防災力の向上を図るとともに、迅速かつ的確な消防活動を遂行するため、消防・救急体制の充実を推進します。

また、市民、地域、関係機関による防犯活動を促進することで、犯罪を未然に防止し、市民が安心して暮らせるための安全で安心なまちの実現を推進します。

さらに、将来の世代のために、地球温暖化対策を推進するとともに、限りある資源の有効活用と廃棄物の発生を抑制し、環境へ配慮した持続可能な循環型社会の構築を図ります。



基本目標 4 にぎわいと活力に満ちた緑あふれるまち (都市基盤・産業)

将来にわたって、緑豊かな住みよい住宅都市として発展し続けるためには、鉄道4路線による8つの駅を有する利便性の高さを活かし、緑と調和した景観形成や緑地の保全を図りながら、魅力あるコンパクトなまちづくりを目指すとともに、商工業の活性化や持続可能な都市農業を構築することで、『にぎわいと活力に満ちた緑あふれるまち』を目指します。

そのため、安全で快適な生活を営み、良好な都市環境を推進するため、歩行者や車等、沿道地域や周辺の土地利用に配慮した都市計画道路等の整備を行うとともに、道路の適正な維持管理を推進します。

また、公共交通機関の利便性向上や都市交通によるネットワークの充実を図るとともに、安定したライフラインの供給や治水対策を図り、安全で快適な居住環境の構築を推進します。

さらに、農地は、農産物の供給のほか、良好な環境の保全や景観形成、緑の確保など多様な機能を有していることから、この機能を最大限発揮するとともに、農産物のブランド化、地産地消の仕組みづくりなど、農業経営の安定と振興を推進します。

また、商工業については、企業の生産性向上を支援するほか、創業支援や企業誘致等に取り組むことで、市民の雇用拡大を推進するとともに、商工会など関係団体と連携し、駅前空間等のにぎわいと交流を創出し、商業拠点の活性化を推進します。



基本目標 5 豊かな心と生きがいを実感できるまち (生涯学習・文化・スポーツ)

少子高齢化の進展、健康寿命の延伸、ライフスタイルが変化する中、誰もが生涯にわたって学習やスポーツに取り組むとともに、歴史、芸術文化に触れることで、『豊かな心と生きがいを実感できるまち』を目指します。

そのため、良質な芸術文化に触れる機会を創出するとともに、市民自ら参画・発信することで、市民の創造性を育み、その表現力を高め、心豊かな社会の形成を推進します。

また、学習、スポーツ、レクリエーションを通じて、地域づくりの担い手を育成することにより、地域活動による交流の機会やにぎわいの創出を推進します。

さらに、地域資源となるプロスポーツ団体と連携した事業を推進し、市の魅力向上とにぎわいの創出を推進します。



第4章 基本構想の実現に向けて

基本構想の実現に向けて、第3章に定める5つの基本目標を着実に達成する必要があります。

そのため、まちづくりの基本理念となる「みんなでつくるふるさと 鎌ヶ谷」に基づき、市政運営の基盤となる基本的な考え方を次のとおり掲げます。

1 市民協働・男女共同参画・多文化共生

市民、自治会、市民公益活動団体、事業者、行政など多様な主体が、それぞれの役割と責任のもと、地域社会に共通する課題の解決や目指す目標の実現に向けて協力し、主体性と独自性を発揮しながら協働によるまちづくりを推進します。

特に、福祉、環境、防犯、防災、まちづくりなど、大きな役割を担っている自治会等による地域コミュニティの活性化を推進し、市民のまちづくり活動への参加促進に努めます。

また、年齢、性別、国籍、文化などの違いにかかわらず、すべての人々の人権が尊重され、地域の一員として、いきいきと活躍できる地域社会の構築を推進するとともに、社会の対等な構成員として、自らの意思によって様々な分野の活動に参画する機会が確保され、ともに社会の利益を享受できる社会づくりを推進します。



2 持続可能な行財政運営

急激な少子高齢化に伴い、我が国が人口減少時代に突入した今、本市においても、人口減少に対する効果的な対策を講じなければ、近い将来人口が減少することが予想されます。

これにより、生産年齢人口の減少、社会保障費の増加に伴う厳しい財政状況が見込まれるとともに、公共施設の老朽化対策など、今後乗り越えなければならない多くの課題があります。

そのため、行政評価制度に基づく事務事業の見直し、情報通信技術 (ICT) を活用した業務の改善など、引き続き不断の行財政改革に取り組み、計画的かつ効率的な将来を見据えた持続可能な行財政運営を推進します。



前期基本計画 重点プロジェクト

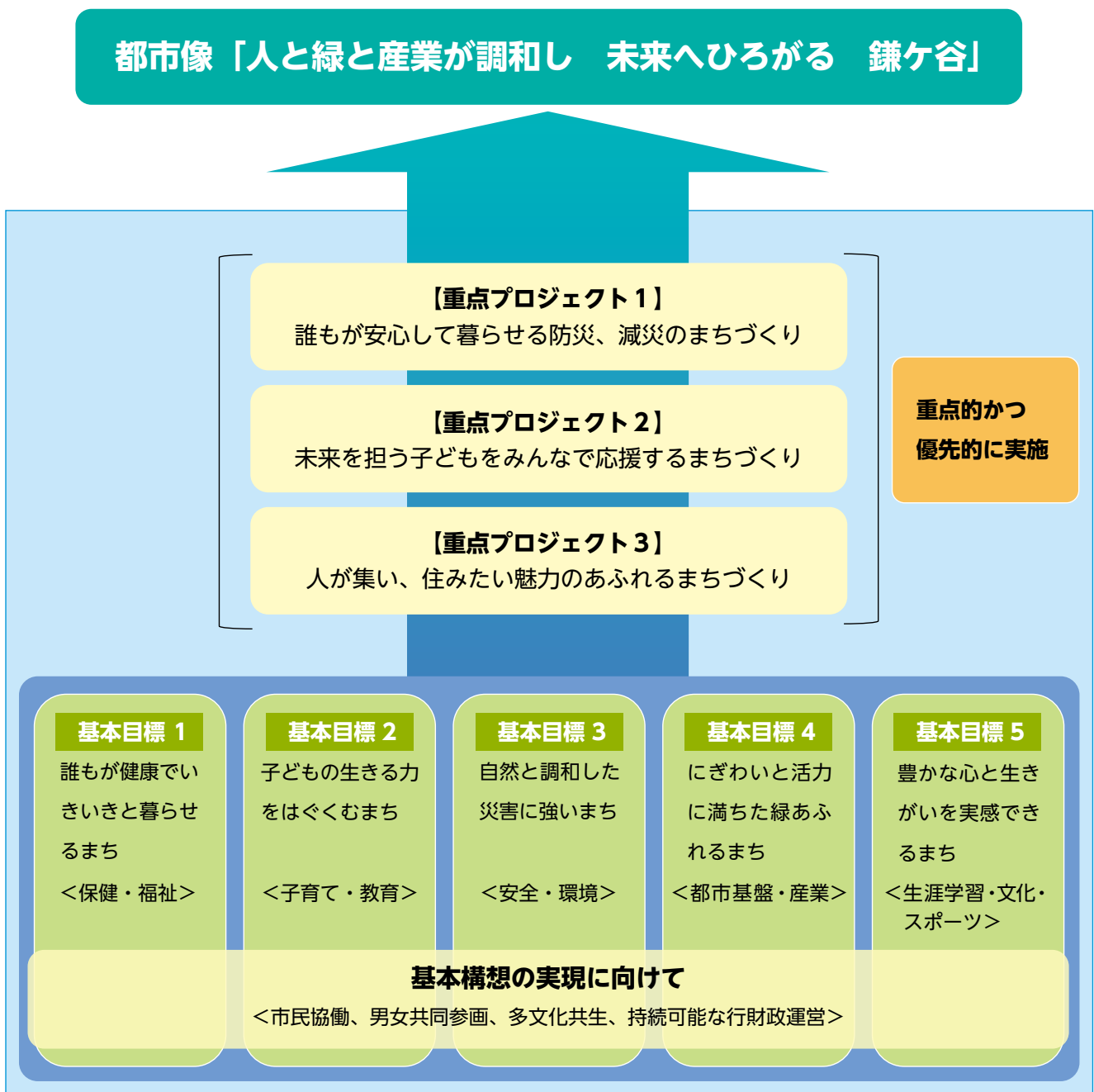
1 重点プロジェクトとは

本市の目指す将来の姿(都市像)を実現するため、基本構想で定める5つの基本目標を踏まえ、各分野において重点的かつ優先的に、また横断的に取り組むものとして、次のイメージのとおり3つのプロジェクトを設定します。

重点プロジェクトは、今後解決すべき課題、市民意識調査の結果、社会情勢の変化、行政評価結果(政策評価)を踏まえて決定しています。

なお、具体的な取組みは、実施計画に明記します。

図表 3 重点プロジェクトのイメージ



2 重点プロジェクトとは

プロジェクト 1

誰もが安心して暮らせる防災、減災のまちづくり

市民の生命、身体及び財産を守ることは、市の重大な責務であり、すべての市民の願いです。近年、台風や集中豪雨による浸水被害が、激甚化、頻発化するとともに、東日本大震災など、大きな地震も発生しており、今後首都直下地震などの大規模災害の発生が懸念されます。

また、令和2年1月に、国内で最初に確認された新型コロナウイルス感染症は、市民の生命、生活、雇用や経済活動に甚大な影響を及ぼしており、今後は、感染防止策を講じながら、「新たな日常」を実現しつつ、感染症蔓延などの緊急事態に備える新たな危機管理体制を構築する必要があります。

さらに、自然災害への対応として、自助、共助、公助による地域防災力の向上が必要となります。

そのため、危機管理体制と防災対策の強化、消防、救急、救助体制の充実を図るとともに、住宅耐震改修等の補助、準用河川及び雨水貯留池の整備を推進します。

重点施策 ① 危機管理体制・防災対策の強化

重点施策 ② 消防・救急・救助体制の充実

重点施策 ③ 良好な居住環境の確保

重点施策 ④ 治水対策の推進

主要事業
主な取組み

- ◆事前防災、減災対策による地域防災体制の充実
(避難行動要支援者避難支援制度 等)
- ◆災害応急活動、復旧対策の強化 (防災行政無線デジタル化 等)
- ◆消防体制の充実 (消防車両の更新、消防職員の育成 等)
- ◆安全で安心な住宅の整備 (住宅耐震改修促進事業 等)
- ◆安心して暮らせる治水対策 (準用河川及び雨水貯留池整備 等)



救急フェア



救助訓練

急激な少子化の進展は、国全体の課題となりますが、本市の出生数も、平成26年の861人に対し、令和元年は698人と減少傾向にあります。また、少子化による生産年齢人口の減少と高齢化の進展により、人口構造や財政構造にも多大な影響を及ぼすことが見込まれます。

少子化の背景には、経済的な理由、晩婚化、仕事と子育ての両立の難しさ、子育て中の孤立感や負担感など、様々な要因が複雑に絡み合っています。

今後は、行政、学校、地域、事業者など社会全体で、未来を担う子どもとその家庭を支援することで、子どもを産み育てやすい環境を構築するとともに、鎌ヶ谷で育った子どもが、市に愛着を持ちながら成長し続けることで、大人になっても住み続けたいと思えるまちづくりを目指します。

そのため、妊娠、出産、子育て期の家庭に対する施策の重点化を図るとともに、安全で安心な教育環境の確保、生きる力をはぐくむ特色ある学校づくりを推進することで、子育て世代が「住みたい」「住み続けたい」と思えるまちづくりを推進します。

重点施策 ① 子育て環境の充実

重点施策 ② 保育サービス等の充実

重点施策 ③ 学校教育の充実

重点施策 ④ 児童・生徒の健康及び安全等の確保

主要事業
主な取り組み

- ◆妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援
(妊婦面接、乳児家庭全戸訪問 等)
- ◆地域全体で子育てを支えるための環境整備 (児童センター整備事業 等)
- ◆幼稚園、保育園の充実 (民間保育園の誘致 等)
- ◆安全で安心な教育環境の確保 (小中学校トイレ改修 等)
- ◆生きる力をはぐくむ特色ある学校づくり (ICT教育の推進 等)
- ◆児童生徒の安全確保 (通学路の整備 等)



つどいの広場



鎌ヶ谷市教育委員会指導訪問 中学校 理科の授業

本市は、都心から25km圏内にあり、東京都心や沿線都市へ繋がる鉄道4路線を有する利便性の高いまちで、市域の約半分が市街化調整区域という緑豊かな自然に恵まれた住みよい住宅都市として発展をして来ました。

平成14年に着手した新京成線連続立体交差事業は、令和元年12月に全線高架化が完了したため、関連側道、駅前広場などの整備を計画的に進める必要があります。また、北千葉道路の早期使用開始を目指すとともに、事業の具体化を見据えたまちづくりを検討する必要があります。

今後は、都市像となる「人と緑と産業が調和し 未来へひろがる 鎌ヶ谷」を目指して、緑と調和した景観形成や緑地の保全を図りながら、魅力あるコンパクトなまちづくりを進めるとともに、地域の魅力を最大限に活かす取組みを推進し、にぎわいの創出を図っていきます。

こうしたまちづくりを進めながら、企業誘致等に積極的に取り組むことで、市民の雇用拡大を推進するとともに、税収の増加や商工業の振興を図ります。

重点施策 ① 快適な公園・緑地空間の創出

重点施策 ② 安全に利用できる道路環境の充実

重点施策 ③ 魅力ある都市機能の充実

重点施策 ④ 商工業の振興及び観光施策の充実

主要事業
主な取組み

- ◆みどりの保全と創出（都市公園の整備 等）
- ◆計画的な道路網の整備（都市計画道路の整備 等）
- ◆緑あふれる快適な魅力あるまちづくり
（都市計画マスタープラン策定 等）
- ◆にぎわいと活力ある市街地の整備（駅前広場の整備 等）
- ◆企業誘致の推進と雇用環境の整備（企業誘致の促進 等）



新鎌ふれあい公園



新鎌ヶ谷駅前広場

鎌ヶ谷市総合基本計画

発行日：令和3年3月

発 行：鎌ヶ谷市

編 集：鎌ヶ谷市 総務企画部 企画財政課 企画政策室

〒273-0195

鎌ヶ谷市新鎌ヶ谷2-6-1

電 話 047-445-1141

F A X 047-445-1400

■この計画について、詳しくご覧になりたい方は、情報公開コーナー（市役所3階）で、計画書本編をお読みいただけます。

■計画書本編は、市ホームページでも公表しています。

下記URL、もしくは右の二次元コードからアクセスしてください。

<https://www.city.kamagaya.chiba.jp/sesakumidashi/sesaku-sougoukeikaku/sesaku-sougoukeikaku/index.html>

